

結晶母

2011年12月号

発行日：2011年12月20日

「結晶ができる時、最初に生まれる結晶。それが結晶母。結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、ひとつの大きな結晶をつくる。ひとつひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは強く、たくましい！ そんな大事な結晶母の役割を、地球に住むひとりひとりが果たせたら・・・」そんな願いを込めて、名付けました。



【カンボジア】オウ・チェット・ブラム村小学校開校式

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 創設者 鬼丸昌也

NPO 法人格を取得したときから、監事としてテラ・ルネッサンスを支えてくださった本田俊雄さんがお亡くなりになった。正義感あふれる弁護士として、多くの人たちに寄り添ってこられた。もちろん、私たちにも。本田さんの「想い」を受け継いで、テラ・ルネッサンスは「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目指して、前進する。そのことが最大の感謝を表す方法だと信じているから。

本田さん、本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

目次：

- p2-3 topic：京都事務所移転ほか
- p4-5 ともつな事業報告
- p6 カンボジア事業報告
- p7 ウガンダ・コンゴ事業報告
- p8 ふえいす to ふえいす

●京都事務所移転

2011年11月15日（火）に、テラ・ルネッサンスは事務所を、京都市伏見区内のマンションから、同じく下京区内のテナントビルに移転いたしました。

2002年から使用してきたマンション3部屋には、設立当初からの思い出がたくさん刻まれています。職員が私一人だった時に、多くのインターン、ボランティアが集い、作業を共にしてくれました。カンボジア、ウガンダと事業実施地が拡大するにつれ、職員やインターンも増え、スペースや数少ないパソコンを譲りながら、それぞれが担う作業を進めていったのも、今となっては良い思い出です。

このたび、移転したのは、団体賛助会員である株式会社ウエダ本社様がリニューアルされたビル。（事務機のウエダビル リノベーションプロジェクト <http://www.jimukinoueda.info/index.php>）地下にはセミナールーム、1階にはカフェなど、入居者やビルに集う人たちが交流し、新たな出会いが生まれるようにと、さまざまな工夫が凝らされているビルです。JR京都駅から、京都市営地下鉄に乗り換えてひと駅の五条駅で降りていただくと、新事務所まで歩いて5分ほどの距離です。

現在、職員3名（小川・栗田・吉田）とインターンが、新事務所で海外や岩手での事業を支えるために、さまざまな作業を担ってくれています。午前9時45分には事務所に出勤し、掃除を終え、全員で朝礼。朝礼時には、私たちが何よりも大切にしている「ビジョン・ミッション・活動理念」を唱和し、出勤したメンバーで、ビジョンやミッションについて感じたことをスピーチしたり、誕生日をお祝いしたりなど、気持ちを一つに高めながら、その日の仕事が始まります。

職員やインターンが集える拠点があって初めて、継続的な活動が展開できるのだと、あらためて事務所のありがたさと、それを会費や寄付で支えてくださっている会員・支援者の皆様のお支えに感謝しています。新事務所では、書籍やウガンダ産コーヒーなども取り扱っておりますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。また、月に一度開催しているテラ・カフェ（テラ・ルネッサンスの活動を紹介するイベント）も、これから新事務所が入居するビルにて開催いたします。

会員様や支援者様に、より身近な事務所でありたい。職員、インターン一同、そのように願い、新事務所での任務に当たってまいります。（鬼丸）



入り口



事務所の風景



ビル外観

【新事務所】

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町 21 番地 jimukinoueda bldg. 403 号室
TEL&FAX: 075-741-8786

【事務所対応時間】

月～土 10:00~18:00

ご注意 1 電話・FAX 番号が新しくなっていますので、ご注意ください。

ご注意 2 事務所にお立ち寄りの際は、事前にお電話かメールでご一報くださいませ。

イベントなどで職員が不在の場合があります。

●書き損じたはがきや使い終わったインクカートリッジを捨てる前に。 社会貢献に活用しませんか。

毎年、この時期になると、テラ・ルネッサンスでは書き損じはがきの回収を呼びかけています。あわせて、今年は、使用済みのインクカートリッジの回収も強化することになりました。

皆様からお送りいただいた書き損じはがきは、郵便局にて手数料を引かれた後に切手に交換。それを金券ショップにて換金します。また、使用済みインクカートリッジは、提携企業に買い取りをしていただき、その買取金で、さまざまな支援事業に活用してまいりました。

2010年度は、多くの方にご協力をいただき、286万3,795円分の書き損じはがき、使用済みインクカートリッジを寄せていただくことができました。寄付や会費など、皆様からのご支援で活動を展開しているテラ・ルネッサンスにとっては、大きな財源の一つになっています。

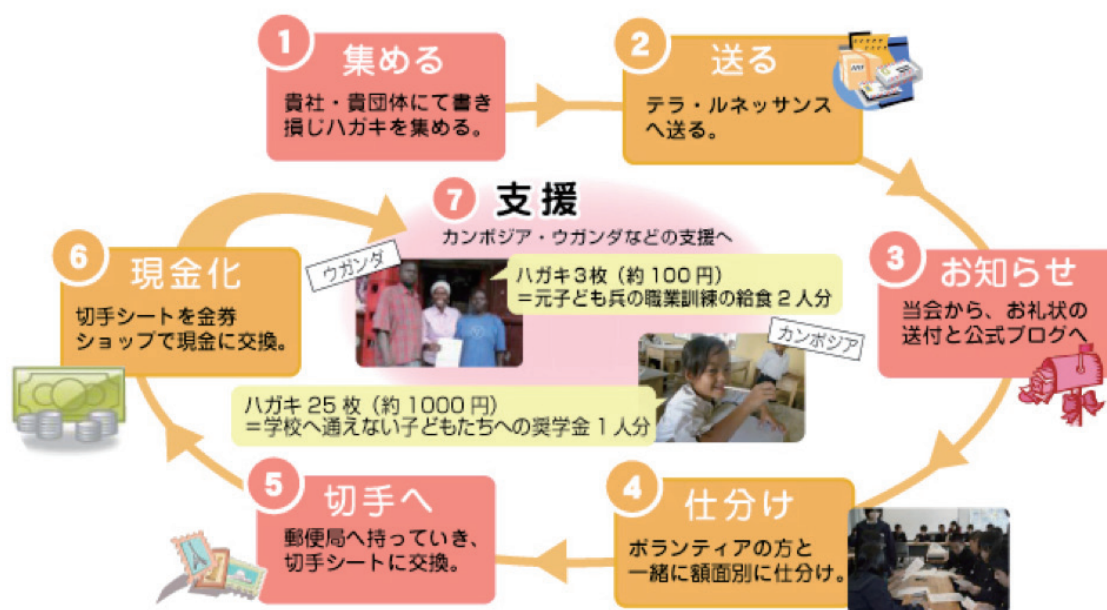
全国各地で、小中学生が保護者の皆様に呼びかけて、学校に書き損じはがきを持ち寄ったり、店舗経営をされている方が従業員教育の一環として、従業員の皆様に趣旨をご理解いただいた上で、店舗を利用されるお客様に回収を呼びかけてくださるなど、さまざまな取り組みの輪が広がっているのです。

今年は、皆様から頂戴した書き損じはがきや使用済みインクカートリッジを換金して得られた資金を、50%はウガンダでの元子ども兵社会復帰支援、カンボジアでの地雷被害者支援に活用し、残り50%は、東日本大震災被災者支援（ともつな基金）に活用することになりました。

たとえば、ハガキ3枚（約100円）で、カンボジアで子どもたちが安心して遊べるための地雷原1㎡の安全を確保できます。ハガキ25枚（約1,000円）で、カンボジアで貧しくて学校に通えない子どもたちへの奨学金1人分として活用することが可能になります。また、岩手県大槌町で展開している「大槌復興刺し子プロジェクト」の運営費などにも活用いたします。

お子さんが通われている学校で、PTAで、お勤めの会社や組合で、ぜひ多くの方に呼びかけていただいて、「書き損じはがき・使用済みインクカートリッジ回収キャンペーン」に、ご一緒に参加いただきたいと思います。

詳しくは、同封の「書き損じはがき・使用済みインクカートリッジ回収キャンペーンチラシ」をご覧ください。（鬼丸）



【ともつな】 刺し子会、ただいま開催中

毎週1回、集会所で開催される刺し子会。30人前後の刺し子さんが参加します。刺し子会で私たちスタッフは、検品・買い取り・技術相談・商品のアイロンがけ・梱包を行っています。

刺し子さんたちは、自分の買い取りが終わるまで、世間話をして笑い合ったり、互いに縫い方を見せ、技術向上に向けて話し合ったり、私たちスタッフの作業の一部を手伝っていただいたりと、積極的に刺し子会に参加し、楽しみながら学ばれています。刺し子会を行っている、皆、笑顔で、笑い声が絶えません。

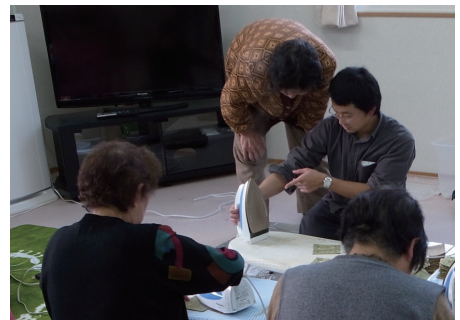
刺し子会を始めた当初は、刺し子さんたちの話の内容には、必ず震災時の体験談が出てきていました。家族や友人、お隣さんに、自分の住まいがなくなった時の心境や、震災当時に自分がどこで何をしていたのかを刺し子さん同士や私たちスタッフに話していました。

今でも震災当時の話が出てきますが、その後に何人かの刺し子さんは、「今、生きている私たちは、強く生きていかなければならないと思う」と話してくれました。

少しずつですが、刺し子さんの心境に変化が出てきていると感じます。
(関)



刺し子会の会場にて



完成した商品にアイロンをかけています

【ともつな】 最近の刺し子さんの様子

被災地での生活はさまざまな問題がありますが、落ち着いてきています。食料等も買うことができるようになってきました。ただ、震災後人生が全く変わってしまった人が刺し子さんの中にも大勢います。

- ・目の前でたくさんの方が亡くなった。
- ・自分を助けにきた孫が亡くなってしまった。
- ・手が届くところにお父さんがいたのに助けができなかった。
- ・目の前で助けてと叫びながら車中のまま渦の中にずっと飲み込まれた女性がいた。
- ・子供たちを亡くした多くの家庭。
- ・買ったばかりの家を流された人。
- ・遺体安置所に何度も行ったために遺体を見ても何にも思わなくなった女性。
- ・今でも助けてという声が耳から離れないという人。

生活自体は仮設住宅に移ることができて落ち着いてきましたが、さまざまな体験はそんなにすぐに忘れられるようなものではありません。

刺し子を通して、生き甲斐ができたと言ってくれる人たちがいます。このプロジェクトがなくなったら困る。ここには、そう言ってくれるお母さんやおばあちゃんがたくさんいます。まだまだ先は長いですが、ともに一步一步丁寧に歩んでいきたいと思います。
(吉野)



ふぎんの手直しをしている刺し子さん

●遠野事務所スタッフ紹介

牧野由起子（スタッフ）

10月に京都から遠野に異動となった牧野です。京都事務所では、支援者の皆様とさまざまな形で接する機会があり、皆様には大変お世話になりました。このたび、遠野にて、初めてプロジェクトの現場で勤務することとなりました。

刺し子という日本の伝統文化を軸にした刺し子プロジェクト。刺し子さんはもとより、商品を買ってくださる方、プロジェクトを応援してくださる方、このプロジェクトにかかわる人すべてが笑顔になれるような、そんなプロジェクトを目指して、日々精進してまいります。

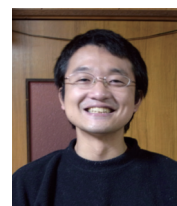


牧野

鈴鹿達二郎（インターン）

初めまして。インターンの鈴鹿達二郎です。11月初めから、遠野で活動しております。この9月まで4年間、アフリカのタンザニアに、青年海外協力隊などでおりました。久しぶりの冬がここ岩手で、寒さに驚いています。

刺し子会では、刺し子さんが、ご自身で刺し子を縫い、収入を得て喜ばれている様子や、刺し子さん同士が、自由にお話をされている様子を見て、ささやかながら、刺し子さんの生活に役立っているのだと、嬉しく思います。支援者の皆様の想いやご支援に感謝し、現地のニーズと、刺し子さんの気持ちを大事にして、復興に向け、取り組んでまいります。



鈴鹿

●刺し子商品 制作の流れ

刺し子さんに材料配布 → 刺し子さんが家で縫う → 刺し子会で買い取り

買取価格：ふきん 500 円 / コースター 300 円

2011 年 11 月末日現在

買取枚数	ふきん 3,381 枚 / コースター 3,519 枚
買取金額（刺し子さんの収入）	2,764,400 円（型とり代 18,200 円を含む）
刺し子さんの人数	140 名

商品のご購入、その他、詳細をお知りになりたい方は、

→ <http://tomotsuna.jp/> または、「大槌刺し子」で検索してください



完成したコースター

●西水美恵子氏講演会 開催

11月18日（金）岩手県釜石市にて、元世界銀行副総裁の西水美恵子さんを講師にお招きして、講演会「私たちの復興へ・雷龍の国ブータンから学ぶ」を開催いたしました。西水さんは、ベストセラー「国をつくるという仕事（英治出版）」の著者でもあります。

当日は、釜石市はもとより、大槌町や遠野市、花巻市、盛岡市ほか、岩手県外からお越しくださった約 50 名の方にご参加いただきました。

講演会は二部構成で、西水さんの講演の後、質疑応答の時間が設けられ、会場の参加者の皆様からは、途切れることなく質問が寄せられました。

「リーダーとは、自分自身の人生を導く人である」。この言葉を胸に刻んで、これからの活動に取り組んでいきたいと思います。（牧野）

【カンボジア】地雷除去後の土地に小学校開校！ 株式会社トータルハウジング様 ご支援

2011年10月17日、パイリン特別市にあるオウ・チェット・ブラム村に、小学校が開校しました。ご寄付くださったのは、鹿児島県の株式会社トータルハウジング様です。

建設途中のある日、現地スタッフが村を訪れると、背の高い欧米人が、小学校の建設作業地で写真を撮っていました。その人は、この土地の地雷撤去をした地雷撤去団体 The Halo Trust のスタッフでした。彼に言われたのは、「ここで小学校を建設してくれて、とても感謝している」との言葉でした。安全になったこの土地に小学校を建てることで、さらに多くの子どもたちが学校へ通い、土地が有効に利用されることで、地雷撤去をした価値がさらに大きくなるということです。

開校式当日は、前日に降った雨の影響で道が悪く、小学校の手前 4km で車を降り、歩いて村へ向かうことになりました。渡邊社長や社員の皆様にも、暑い中、歩いていただき、ようやく小学校が見えてきました。

午後 2 時半、いよいよ開校式のスタートです。小学校には多くの村人たちや子どもたちが、花道をつくって迎えてくれました。「オククン(カンボジア語で“ありがとう”)、オククン」と、次々と笑顔で声をかけられます。

完成した小学校では、5 教室の校舎とトイレ 2 基で、子どもたち 240 名が勉強します。(江角)

【カンボジア】元地雷原に住む村人たちとの国際交流

NPO 法人コミュニティ時津様 プレア・プット村訪問

村落開発支援を実施しているプレア・プット村に、2009 年より毎年訪問いただいている長崎の NPO 法人コミュニティ時津の 5 名の皆様が、今年も 10 月後半にお越しくださいました。今年は、プレア・プット小学校の教員用宿舎の建設費をご寄付くださり、建設状況を視察、時

津小学校からの衣服や文房具、そして手紙をプレア・プット小学校の子どもたちに届けてくださいました。返信の手紙をカンボジアの子どもたちが書いて、継続的な交流が始まっています。(江角)

【カンボジア】“今でも、足があったらなぁと思うことがあります” 開会時の地雷生存者ソン・コサルさんのスピーチより

～第 11 回対人地雷禁止条約締約国会議報告～

11 月 27 日より、第 11 回対人地雷禁止条約の締約国会議がブノンペンで開催されました。会議では、フィンランドとソマリアが近くこの条約に参加することを発表、ブルンジとナイジェリアは国内の地雷撤去が完了し、地雷フリーの国は 18 カ国になるなどの進展がありました。一方で、地雷による 2010 年の被害者が、世界全体で 4,191 人に上り、前年より 5% 以上も増加。2011 年には、リビアとシリアで新たな対人地雷の使用が確認され、イスラエルやビルマ（ミャンマー）の他、アフガニスタンでは武装勢力により対人地雷が使用されています。

会議の始まる直前に、イギリスを中心とした政府代表団が、バタンバン州の地雷撤去団体 MAG の地雷撤去現場を視察しました。そこで、テラ・ルネッサンスが昨年より支援している、オッチョンボック村の 2 人の地雷被害者を含む伝統音楽楽団が、政府代表団の昼食時に、クメール伝統音楽の演奏を披露しました。(江角)



政府代表団前での伝統楽団の演奏

【ウガンダ】6期生の社会復帰が進んでいます

2011年度より、ウガンダでの元子ども兵支援事業は、現地職員主体の運営体制に移行し、引き続き現地での活動を継続しています。現場での活動で最も大切なことは、「現地の人々にオーナーシップを持ってもらうこと」。そのことを念頭に、6年間、日本人駐在員が事業の立ち上げ、運営、管理、現地人体制への移行を進めてきました。そして、今年7月、第6期生20名の元子ども兵を受け入れました。

現在のウガンダ北部の治安は安定していますが、隣国のコンゴに「神の抵抗軍」が拠点を移し、そこで戦闘に加担させられた元子ども兵たちです。隣国コンゴで保護され、戻ってきた彼ら彼女らは、今、社会復帰に向けて、洋裁や手工芸、木工大工の訓練に取り組んでいます。

また、第5期生のモニタリングも並行して行っていますが、現在、彼ら彼女らの多くは、現地の公務員と同等の収入を得られるまでになっています。

これらの活動を、現地で同じように紛争を経験してきた現地の職員が取り組みを続けてくれていることを、大変頼もしく思っています。今後も、現地の「人々」が、「地域」が、「国」が自立するまで、テラ・ルネッサンスとして、できる限りの支援を続けていきたいと考えています。(小川)



洋裁訓練を受けて、練習用の紙で子ども服を製作した元子ども兵



第5期生のモニタリング調査に訪れ、ミシンのメンテナンス、修理方法を教える現地職員

【コンゴ】魚の養殖に成功！ 1,000匹収穫



マラリア予防のための蚊帳を受け取る子どもたち

コンゴでは、対象地域12ヵ村において、受益対象者が、BHN（人間としての基本的なニーズ）を満たすことを目指して、カウンセリングや職業訓練など、彼ら彼女らが衣食住を満たし、自立していくことを目的に活動を行っています。

また、現在も武装勢力の影響を受けて、医薬品や医療機関へのアクセスが限られた状況にあり、多くの人々（特に5歳未満の乳幼児）が予防または治療可能なマラリアなどで命を落としているため、「蚊帳」を幼児を抱える女性や孤児ら300人に配布し、マラリア予防のための啓発活動を行いました。

そのほか、自立に向けて、自給食料を自らが生産できるようにするための活動として、農業とともに、魚の養殖の指導とその整備の支援を行ってきました。昨年度完成した、魚の養殖用の母体となる「ため池」で、4ヶ村の元子ども兵らのグループが共同で養殖を行いました。約1,000匹以上の成長した魚を収穫することができました。収穫された魚の半分は食用として消費し、残り半分を各4ヶ村に作ったため池に放流しました。各村のため池は、今後、元子ども兵らのグループが自主的に管理をしていけるよう、指導を行っています。

コンゴでは、今月、大統領選挙があるなどで治安もまだ安定している状況ではないため、今後も自立支援にあわせて、緊急的な支援も継続して行っていく予定です。(小川)



昨年放流した稚魚が成長し、約1,000匹の養殖（収穫）に成功

●カンボジア・スタディツアー 2012

【会員特典】テラ・ルネッサンス カンボジア・スタディツアーを開催します。

日時：2012年3月4日（日）～3月11日（日）（7泊8日）

定員：10名（先着順）

アンコールワットなど、悠久の歴史遺産をたくさん抱えるカンボジア。NPO法人テラ・ルネッサンスでは、カンボジアで、地雷除去支援、地雷埋設地域で村落開発に取り組んでいます。このツアーでは、地雷問題に焦点をあて、私たち日本人に、カンボジアやアジア、世界で起こる問題に対し、何ができるのかを、ツアーを通じて考えていきます。

訪問予定地：キリングフィールド、トゥールスレン強制収容所、カンボジア義肢装具士養成学校、ゴミ山、村落開発プロジェクト地、地雷原&地雷撤去作業見学（協力：地雷撤去団体 MAG）、ピースフル・チルドレン・ホームⅡ（孤児院）、アンコール遺跡群

参加費や行程などの詳細はウェブサイトをご覧ください。（栗田）

→ <http://www.terra-r.jp>



昨年度のカンボジア・スタディツアーにて

●テラ・ルネッサンス職員をあなたの会社や学校・町に呼んでください（講演のお願い）

「あんな遠い国のできごとを、こんなにも身近に感じさせてくれる」、「私も社会のために何かできるんだって、信じれるようになりました」。全国各地から、テラ・ルネッサンス職員の講演を聞いて、このような感想をお寄せいただいています。

2001年の当会設立以来、講演活動は重要な活動の一つです。地雷や子ども兵問題の現状、そして、問題解決に向けての私たちの取り組みを通じて、

誰にでも社会を変える能力（可能性）があるということを、一生懸命、お伝えしてまいりました。

2001年から現在まで、延べ10万人以上の方々に講演を聞いていただき、学校、企業、行政など多岐にわたるところから招聘いただけるようになりました。

現在では、鬼丸昌也だけでなく、小川真吾、栗田佳典、そして、トシャ・マギーが、自身の体験を通じて、お話

をさせていただいています。

国際理解教育の一環として、新入社員モチベーションアップ研修として、一度、テラ・ルネッサンス講師を招聘ください。講師プロフィールなど各種資料をそろえておりますので、ご興味のある方は、テラ・ルネッサンス（TEL：075-741-8786）までご連絡くださいませ。（鬼丸）



トシャ・マギー

●インターン生紹介



和氣

はじめまして。こちらで9月からインターンをさせていただいております、大阪女学院大学の和氣彩可です。国際協力という分野で働くとはどういうことかを、素晴らしい職員の方々の下で学ばせていただいております。よろしくお願いいたします。

<編集・発行>

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町 21 番地
jimukinoueda bldg. 403 号室

TEL/FAX：075-741-8786
E-mail：contact@terra-r.jp
HP <http://www.terra-r.jp>



<編集後記>

ことしは激動の1年でした。テラルネはもちろん、私自身にも大きな変化がありました。（まさか岩手に来ることになるとは思ってもいませんでした）

そのとき、その場で、自分にできることに精一杯取り組む。そうすれば、物事はちょっとずつでも変化していくと信じて、活動していきます。（牧野）